

恐竜手づくりプロジェクト

田口公則・大島光春 (学芸員)

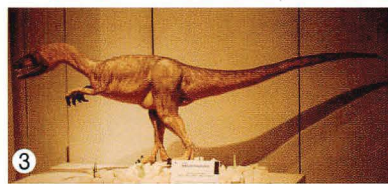


図1 みんなの手づくり恐竜展
展示室中央には、折り紙
コーナーを設置。
図2 恐竜ジオラマ
ねんどや身近な材料で制
作されたジオラマ、タイムラ
ベラー(左下)も登場。
図3 恐竜模型
恐竜骨格図をもとに肉づけ
されたアロサウルス。
図4 恐竜のたまごモデル
フィルムケースを用いてたま
ごの殻構造まで復元。たま
ごに入って楽しむ大人気。

平成14年2月16日から3月17日まで企画展「みんなの手づくり恐竜展」を開催しました。恐竜手づくりプロジェクト「わくわく恐竜くらべっこ・復元に挑戦！」と題してすすめてきた文部科学省委嘱の「親しむ博物館づくり事業」の一環として行なわれたものです。

企画展の主役は、小中高の学校のクラスやクラブ活動、地域のクラブ、家族などのグループにより製作された恐竜作品です。予想以上に多様な作品が集まりにぎやかな手作り恐竜展示室となりました。でも、この手作り恐竜プロジェクトは、ただ単に作品を募集して展示室に並べたイベントではありません。昨年の秋の募集以降、博物館を軸としながらプロジェクトにエントリーした地域のグループがさまざまなかわりを持ちながら手づくりした企画展なのです。

まず、10月と12月には恐竜復元をテーマとした講演会を開催しました。本誌前号にある犬塚氏の「恐竜復元」、今号の小田氏の「恐竜が描かれるま

で」はそのときの講演会に準じた寄稿です。みなさんに恐竜を製作していただく前に、恐竜の科学的な復元的一端を知ってもらうのが自然史博物館としてのねらいでした。講演会に参加した中学校の科学部は、古生物学者が描いた恐竜骨格図から肉付けを行ない、とてもバランスのよい恐竜作品を制作しました。骨にはどのように肉付けされるのだろうと、動物のはく製の観察をすすめるといった態度は、博物館にとってはうれしい展示利用の一つでした。

恐竜づくりをテーマに地域にちらばっている参加者グループをつないだのはインターネットの活用です。「掲示板」とよばれる機能が、博物館の学芸員を軸としてグループをつないでくれました。10月には最初の参加者がありましたから、長い人で5カ月間も「掲示板」をとおして恐竜手づくりプロジェクトに関わったこととなります。まさに企画展づくりをみなさんと共有する面白い活動に発展しました。

参加した皆さんには、みんなで協力して作品を作ること、恐竜について調べること、恐竜の復元を考えること、工作の方法を工夫すること、他のチームとアイデアを交換すること、インターネットを使ってみることなど、いろいろな楽しい経験をしていただけたことと思います。

作品はいずれ、消えてなくなるでしょうが、プロジェクトでの経験がどこかで生かされるかもしれないとしたら、今回の企画は大成功だと思います。

自然科学のとびら

第8巻第1号(通巻第28号)

2002年3月15日発行

発行 神奈川県立生命の星・地球博物館

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846

http://www.city.odawara.kanagawa.jp/museum/g.html

e-mail: fukyuu@pat-net.ne.jp

発行人 青木淳一

編集 田口公則

印刷所 フルサワ印刷株式会社

自然環境保護のため再生紙を使用しています